

上島の俳壇 歌壇

水曜会【弓削】

台風のと晴れ渡りて静か

アンディ

漆黒の闇に鳴き虫淋しかり

亀島 一美

浜風に吹かるるばかり花芒

小西 佳子

好きな花コスモスこれほどしか咲かず
小林しぐれ



浮標灯早ともりある秋時雨

澤井 清

夕焼に染まりてゐたき赤とんぼ

田坂 紫苑

一筋の水尾一湾の秋晴に

田坂美代子

わらべうた口つきいでて萩の宿

中本砂恵子

七十はまだ若造と胡麻叩く

畑 弓道

たまわりし仲秋の花とりどりに

原田 千翠

弓削歌会【弓削】

島に生まれ島に永らえ汐風のやさしき今日の誕生日迎う

石田富美子

戦争に行けざりし父の常に歌う赤い夕陽の満州に親友は：

(病氣のため) 上村美智子

わが耳に歩けるけの声すれど動き鈍きに苛立つばかり

梅林 一郎

いとけなきサワ蟹座敷に這いいでて記録破りの豪雨を嘆く

島田 義治

暮れなずむ段々畑のみかんの木見捨てられても甘く香りぬ

地元 静子



台風禍の野菜の高値言い出でて娘よりの電話なかなか切れず

西原 鈴子



上島を襲った台風

跳ねている小鯛もらいて青鷺はすこし離れて釣り人見おり

橋本喜代子

三夫婦の子等の揃いて夫への墓参見送る足萎えわれは

平川 房子

草庭にこおろぎの啼く季となり蟬高啼きしは昨日とも思う

松本 悦郎

亡き人とすごせし盆の終りたり三界萬霊安きを願う

安川二三子

生名俳句会【生名】

病窓のふるさと眺む秋の天

村上もとむ

岩礁の灯台ひとつ渡り鳥

村上 水師

チリンとも鳴かず風鈴垂れ下がる

大本 哲弘

かく生きて敬老会に集いけり

野町 正春

庭荒れて夏鶯の吃り鳴く

福島 鳴泉

ビードロの風鈴を聞く留守ひとり

村上 昌子

濱風の頬撫でてゆく今朝の秋

浜口 延子

颶風とて家鳴りす人は皆無言

宮本 純

島影に夜釣りの灯し二つ三つ

福島 布昌

天高し校庭に児等賑やいで

村上 福子

ラケットを構えし夫に今日の月

中本みねかず

生名短歌会【生名】

来年も逢いたく思う級友とビールの乾杯高々とせる

村上 文子

草生うる空地に一本トリトマの花つんと立ちアキアカネ飛ぶ

村上 宗子

反古の中に父の未完の書のありて他に無き吾の宝となせり

山本 福子

五月雨にいともしやけかり紫陽花を一枝活ければ部屋明るき

村上 司

稲の穂が八月末に色づきて島になき
風致車窓に見ゆる

渡辺スズ子

猛暑去りし島に一つの台風は近ずき
つつあり秋ざわざわと

池本 滝子

暴風雨いたくいたぶりて去りしのち
を徐ろに咲く夕化粧花

濱田伊勢子

もう少し太りなさいと娘がくれし榮
養飲料食卓に置く

増成 君子

イチジクにハナイチジクというが成
り三つ持ちゆき二人で食べる

池田 友幸

双葉俳壇【岩城】

帰省孫樂しい夢か今朝の秋

朝顔や心づくしの鉢三つ

児島 泰

立秋や波打ち際の風やさし
夕顔の淡き白さよ星明り

田名後敏子

人影の絶えて静まる浜の秋
今朝秋や鏡に向う日焼顔

林 ヨシ子

土鍋にて粥噴きそめし今朝の秋
朝顔の一輪紺の色冴ゆる

林 七重

朝顔や食堂只今準備中
集合は母校正門赤とんぼ

古林 幹枝

朝顔や九九唱えつつ子等の行く

朝顔のパワーもらってミシン踏む

山元 征子
秋立つや老後しかと老後を踏み出し
ぬ

朝顔や坪庭に藍きわだちぬ

美濃部妃苗



台風やひとりひたすら耐える夜
闘病の友を見守る今朝の秋

中本砂恵子

秋立つや笥の水の澄み切りて
朝顔の堀超えゆるる蔓の先

田中 華丘

燐寸擦る音乾きおり今朝の秋
驚きし秋の浅間山の噴火かな

森本 和佳

空砲の一発ありて今朝の秋
朝刊に秋を見つけて旅支度

田名後篁雨

夢少しつなぎて古希や今朝の秋
朝顔や夫日曜の顔で立つ

幸本 孤燈

(注) 立秋＝秋立つ・秋来る・今朝の秋・
今日の秋ともいう。

むつみ歌会【岩城】

アテネ五輪のテレビに釘付け応援
す熱き思ひの選手に届けと

松岡美知子

たがはずに季節はめぐり山肌に紫
の色ふかく桔梗咲く

宮本佳世子

夫のこし先には逝けぬと語りあし
友の偲ぶる夜の静寂に

田名後節美

瀬戸内を直撃したる台風の十六号
の爪痕深し

森本 和佳

ひとしきりつくつくぼうしの鳴き
し庭さるすべりの紅夏日に耐へる

る

浪本 綾子

五十八度目の祖父の命日覚えて
妹より届きし供物捧げぬ

池田 繁雄

蝉の声減りしに暑さ続きをり立秋
過ぎしをふと気付きたり

森本サダ子

暑き日の今日も暮れたり夕風の出
でし庭木に蝉鳴きしきる

白石 勇

大丈夫遠き知人より真心伝はる吾
仏滅の日に

高本 久子

岩城分校【岩城】

コラム書き腕が痛くてひと休みノ
ートの上に紅茶こぼれる

二年生 浜本 香

黒板の前でたたずみ考え中短歌が

できずまたおこられる

三年生 金子 剛

どしゃぶりで「延期」の放送力抜け
早起きしたのにそりゃないぜ

三年生 田中 勇多

ドキドキしフォークダンス踊ったぜ
今はお手々洗えないなあ

三年生 村上 典之

心臓の音だけ聞こえる壇上で思いを
ぶつける過去と将来

三年生 岡野 麻紀

丸亀でもファン増えおりほがらかな
島育ちです岩城芋菓子

卒業生 織部 悦代



朝焼けの魚島群島